

CONTENTS

ごあいさつ	1
総会特集	2
講演録	4
活動報告	5
活動報告・地域便り	6
お知らせ	7
役員名簿・編集後記	8

21世紀の エネルギーを 考える会・みえ



俱留尊(くろそ) 高原のススキ【津市美杉町】

ご
あ
い
さ
つ



会長 小菅 弘正

今年、天候不順や異常気象が世界各地で頻発しており、多くの人々が災害の犠牲になるなど痛ましいニュースが報道されています。海水面の上昇、生態系の変化など、地球規模で進む温暖化の防止は、私たち一人ひとり

にとっても大きな課題であり、エネルギーや環境問題について正しく理解し、温暖化防止に向けてどのように取り組んでいくかが重要です。

温暖化防止に最も有効な対策は、温室効果ガスとりわけ二酸化炭素の排出量削減であることは言うまでもありません。風力、太陽光などの自然エネルギーに加え、発電時に二酸化炭素を排出しない原子力発電の比率を高めていくことは、次世代に残すべき自然環境という観点から、全世界でその必要性を認められています。これらの電源は、日本のエネルギー自給率を考えた時にも大変有効であり、

積極的に推進すべきことと考えています。

当会といたしましては、本年度総会で承認いただきました声明書の内容に沿った「要望書」を、三重県知事、三重県議会議長、県内市町長、各商工会議所会頭、各商工会会長、県内選出国會議員宛てに、提出いたしました。当会の活動理念である低炭素社会の実現の必要性を県民の方々にご理解いただき、実践的な取り組みに発展していただけるよう、啓発活動を継続してまいります。

今後とも会員の皆さまのご支援とご理解を賜りますよう、お願い申し上げます。

総会



■挨拶する小菅会長

6月8日(火)、「21世紀のエネルギーを考える会・みえ」は津市羽所町のアスト津4階・アストホールで、15回目となる平成22年度総会を開催し、約250名の会員が参加しました。

総会の冒頭、小菅弘正会長は、「先日、当会の役員と、運転を再開した福井県の高速増殖炉『もんじゅ』を見学しました。実用化されると、ウラン全体を燃料にできるため、エネルギーが安定して確保できます。エネルギー自給率の低い日本にとって、意義のあるプロジェクトであると認識しました。

本年は設立15年目という節目の年であり、講演会や見学会などの啓蒙活動により積極的に取り組みたいと思います。当会の活動に引き続きご理解、ご支援をいただき、低炭素社会実現に向けた活動を全県民運動に発展していただくよう、切にお願い申し上げます。」と挨拶しました。

来賓を代表し、板垣秀男経済産業省中部経済産業局資源エネルギー環境部電源開発調整官は、「経済産業省では経済成長政策、地球環境、地球温暖化対策、エネルギー基本計画の見直しを進めています。原子力発電の推進、再生可能エネルギーの導入促進とい

供給側の対策とともに、省エネや次世代自動車の割合を2030年に70%にするという需要側の対策のほか、これらが効率的に連携する社会システムの構築といった内容が盛り込まれています。CO₂削減では、昨年、政府としてすべての主要排出国による公平かつ実効性のある国際的枠組みの構築および意欲的な目標の合意を前提として、2020年に1990年比で25%の排出削減を明言しています。その重要な対策として、太陽光や風力など新エネルギーの導入促進、省エネルギーの推進、発生時にCO₂を排出しない原子力発電の推進という3つをご理解いただきたい。今後とも21世紀のエネルギーを考える会・みえにおかれましては、エネルギーと環境問題について、理解促進にさらに一層ご協力を賜りたいと思います。」と挨拶されました。また、水谷正美三重県議会政策総務常任委員長は、「快適な国民生活や経済・産業発展を支える上で、エネルギーの安定的・効率的供給は不可欠ですが、海外からの天然資源に依存した現在の供給体制では、難しい課題を抱えています。青山高原では本州最大規模といわれる風力発電が稼働していますが、このような新エネルギーを含めた各種エネルギー源を適切に組み合わせ、安定供給を図るとともに、家庭生活などの個人消費分において一層の省エネルギー対策を進めることが肝要です。21世紀のエネルギーを考える会・みえにおかれましては、地球環境問題やエネルギー資源の問題解決に向けた活動をさらに進化させることを期待します。三重県議



■来賓挨拶 板垣秀男経済産業省中部経済産業局資源エネルギー環境部電源開発調整官

会でも、今年度、新エネルギー調査特別委員会を設置しており、低炭素社会に向けてのエネルギー全般に関する調査研究を行っていきます。」と述べられました。

総会では、小菅会長の議事進行により、平成22年度の事業計画、会長の選任、役員承認、会則の改正などの審議が行われ、満場一致で承認されました。また、「低炭素社会」実現に向けて、全県民的な運動への発展を求めることなどを内容とした声明書が、吉田文雄副会長より読み上げられ、こちらも満場一致で承認されました。

総会終了後は、四日市大学環境情報学部教授の新田義孝氏による「低炭素社会の実現に向けて」と題した記念講演が行われ、三重県から発信する低炭素社会への具体的な取り組みを提言する新田氏の講演を、興味深く聞き入っていました。

(講演内容は、P4に掲載)



■来賓挨拶 水谷正美三重県議会政策総務常任委員長

平成22年度事業計画

■基本方針

地球温暖化を防止するため、温室効果ガス排出量の削減に向けた取り組みは、今日、重要性を増している。

このような状況を踏まえ、「環境との調和を図ったエネルギーの確保等による低炭素社会の実現」についての理解をより浸透させるため、低炭素社会実現の重要性に関する啓発活動、県民に対する情報発信、県内有識者や各種団体等に対する提言活動を積極的に実施する。

■活動計画

低炭素社会実現の重要性に関する啓発活動

【会員に対する啓発活動】

原子力のほか風力・太陽光等の発電時にCO₂を排出しない電源や省エネの必要性について、理解獲得を図る。

●講演会・研修会の開催

●エネルギー関連施設見学会の開催

●会報誌の発行(年2回)

【県民に対する情報発信】

原子力のほか風力・太陽光等の発電時にCO₂を排出しない電源や省エネの必要性について理解獲得を図るとともに、当会の活動の紹介を通じて会員の拡大を図る。



■平成22年度総会風景

●地区別講演会・公開シンポジウムの開催

●メディアへの広告出稿

●当会ホームページによる情報提供

●各種団体の大会誌への広告掲載

●低炭素社会実現のための提言活動

低炭素社会実現の重要性を訴求するため、公開シンポジウムを開催するとともに、県内有識者や各種団体等へ提言活動を行う。

次年度以降の提言活動に活かしていくため、今年度も有識者等に低炭素社会実現に向けた調査・研究を委託する。

●低炭素社会実理解のある団体等との連携強化

原子力発電に理解のある団体や企業の発掘とともに、現会員と連携した活動を積極的に展ずる。

声明書

三重県においては、「三重県地球温暖化対策推進計画」を策定して温室効果ガス排出量の削減に取り組んでおりますが、事務所・店舗や家庭における排出量が全体として伸びており、目標達成のためには、より一層、強力な取り組みが求められます。

また、本年10月には、名古屋市でCOP10が開催される予定であり、生物多様性に対する関心が高まっています。生態系の保全には、地球温暖化が大きな影響を与えると懸念されています。

地球温暖化を防止するための「低炭素社会」実現への取り組みは、現代を生きる私たち一人ひとり

の問題であり、未来を担う世代に対する大きな責任でもあります。

「21世紀のエネルギーを考える会・みえ」では、低炭素社会の実現に向けた啓発活動、提言活動に積極的に取り組むとともに、温室効果ガス排出削減施策の推進、とりわけ発電時に二酸化炭素を排出しない電源である風力発電、太陽光発電、原子力発電の推進を求めています。さらに、私たちは、エネルギーや環境問題に対する正しい理解のもと、低炭素社会実現に向けた活動を行政、議会、産業界、市民が一体となった全県民的な運動へ発展させていかなければならないと考えております。

そこで、低炭素社会実現に向けて、三重県知事、三重県議会、三重県経済界を始めとする関係諸団体に、それぞれのお立場からご指導、ご支援をいただきたく、本日、次の事項について、要望いたします。

記

1、県民に対するエネルギー・環境問題の理解向上施策の推進

1、未来を担う子どもたちに対するエネルギー・環境教育の積極的な実施

1、産官学民が協議する会議体の設置

1、温室効果ガス排出削減施策の推進、とりわけ発電時に二酸化炭素を排出しない電源である風力発電・太陽光発電・原子力発電の推進

1、積極的な省エネルギーの実践以上、声明いたします。

平成22年6月8日

「21世紀のエネルギーを考える会・みえ」

「低炭素社会の実現に向けて」

講師：新田義孝氏



PROFILE

新田 義孝 (にった よしたか)

四日市大学環境情報学部教授
暁学園理事長特命補佐 (四日市大学研究機構担当)

昭和19年生まれ。昭和45年慶応大学大学院修士課程応用化学専攻修了、(財)電力中央研究所に入所。平成10年から四日市大学環境情報学部教授に就任。平成19年には電力中央研究所名誉研究顧問、原子力委員会政策評価専門委員を歴任。現在、日本エネルギー環境教育学会副会長、日本マクロエンジニアリング学会会長、日経産業新聞コラムニスト。

主な著書には、「演習 資源エネルギー論」「21世紀改造」「持続可能な地球をつくるマクロエンジニアリング」など。

低炭素社会を目指す意味は、先進国の責任として地球温暖化の防止、日本の技術・社会システムをグローバル化するという新時代の幕開け、エネルギー価格高騰への備えなどが挙げられると思います。そんな中、三重県としてどのような低炭素活動をしていくか。自然と人間活動の調和、エネルギー資源の有効活用という視点から「持続可能な三重を目指した低炭素社会の構築」に向けた取り組みがカギになると思います。

三重県は経済的側面からは南北間格差があり、環境的側面では少しずつ温暖化が進んでおり、年間降水量が低下しています。森林間伐も低調で、森林管理が行き届きになり、野生動物の被害が増加している。伊勢湾は水質は改善されてきたが、貧酸素状態。三重県のエネルギー自給率は2.6%(日本4%)、1人当たりのCO₂排出量は15t(日本10t)となっていて、これは県が経済発展した結果なのですが、低炭素社会を目指

すには、今後は逆発想が必要です。炭素を排出しないカーボン・フリーエネルギーは、水力6.7万t、新エネルギー37万tで合計44万tであり、三重の特徴を強みに変えることが明るい低炭素社会の形成につながります。まず、森林国として、保全林を炭素固定源と位置づけます。伊勢湾は、火力発電所の取水により改善の可能性があります。また、伊勢神宮を有する県として神様の文化を生かし、斎宮等をシニア社会のブランドにすることも一考でしょう。私が考える三重県の「明るい未来像」として次の4つを挙げてみます。

1つめの「伊勢シニアビレッジ」構想は、南勢の海の幸と北勢の工業・技術力でシニアのユートピアを作ることで、電気文明社会が実現する。2つめの「伊勢湾・栽培漁場」は、稚魚を人工孵化することによって、伊勢湾を栽培漁場とする。3つめは、「自然エネルギー導入計画を実現」する。4つめは、「RDF発電は電気自動車用に」して、公用車に導入する。三重の取

り組みを全国に普及させることができると思います。「明るい未来社会」とは、成熟社会に希望を与え、新しい産業を創造し、若者たちに魅力ある就業機会を提供できることではないでしょうか。

徹底的な脱CO₂を行うには、原子力発電の比率を高める必要があります。課題も抱えていますが、客観的に危機評価ができない人も多い。過去の実績から言うと、事故発生率はかなり安全なレベルに達しています。また、高レベル廃棄物の地下処分場の誘致は、地域振興の手段になるのではないのでしょうか。

今後は、さらなる省エネ・省資源を進めるとともに、エネルギー・環境教育の推進を期待しています。子どもたちが社会的・理科的・家庭科的の各視点からエネルギーを理解できるような指導が必要です。将来世代のニーズを損なうことなく、現代の世代のニーズを満たすことがエネルギー戦略としても有効で、大切なことだと思います。

三重県知事、県議会議長に要望書を提出



■要望書を受け取る三谷議長・森本副議長

7月2日(金)、「考える会」の小菅弘正会長、齋藤彰一副会長らは三重県庁を訪れ、同会の平成22年度総会の報告を行うとともに、低炭素社会実現に向けた取り組みの強化などを求める三重県知事宛の要望書を提出しました。

要望書は、平成22年度総会で

採択された「声明書」(P3参照)に沿った5項目について、県の取り組みを求めています。当日、知事の代理で要望書を受け取った小林清人政策部長は「新エネルギービジョン改定に向けて各部局の意見を聴取している。知識集積型産業として、エネルギー・環境問題のみならず産業振興政策として進めていく必要がある」と話されました。

7月5日(月)には、同内容の要望書を三谷哲央県議会議長、森本繁史県議会副議長にも提出しました。三谷議長、森本副議長は、「エネルギー政策は国策としての方針

が必要であり、その中で県として何ができるのかを検討していきたい。県議会でも新エネルギー調査特別委員会を設置し、調査を行っている」と述べられました。

また、7月中旬から8月にかけて、県内市町の首長・議長等にも同文書を提出し、理解を求めました。



■三重県知事の代理で要望書を受け取る小林政策部長

役員懇話会

9月2日(木)、ホテルグリーンパーク津で、第3回役員懇話会を行い、40名が参加しました。当日は講師に元愛知県環境部長でCOP10支援実行委員会総括参与の林清比古氏を招いて「COP10の概要と環境問題」をテーマに懇話会を行いました。

林氏は、生物多様性を「種の多様性」「遺伝子の多様性」「生態系の多様性」の3つに分けて説明。地球上の175万種の中で、人間は生物の中で特殊な存在であり、資源やエネルギーを異常に消費しているとしました。また、これまでに行われた生物多様性条約と締約国会議の経緯をたどり、10月に名古屋で行われるCOP10は、東海地区初の国連の大規模会議であり、地域の魅力発信、地域づくりにもつなげていきたいと話しました。

また、企業のリスクマネジメントのひとつとして「生物多様性」という観点を加えてほしいとも話し、参加した役員らもうなずきながら、聞き入っていました。



■林氏の講演を熱心に聞く参加役員

役員視察会

高速増殖原型炉「もんじゅ」



■もんじゅの仕組みについて説明を受ける参加役員

5月13日(木)・14日(金)、福井県の若狭湾エネルギー研究センター、高速増殖原型炉「もんじゅ」の視察会が行われ、当会役員の15名が参加しました。

放射能研究棟や大型太陽炉などを備えた若狭湾エネルギー研究センターでは、原子力およびエネルギー関連技術の地域産業への普及を目指した福井県ならびに同センターの取り組みを学びました。

「もんじゅ」では、エムシーセンターやナトリウム取扱研修施設などを見学し、高速増殖炉の必要性の説明を受けたり、実際にナトリウムが施設内で安全に管理されている現場を視察したりしました。

見学会

川越火力発電所

伊勢商工会議所



■発電の仕組みについて説明を受ける参加者

6月2日(水)、伊勢商工会議所会員20名が参加し、中部電力川越火力発電所見学会が行われ、当会も協賛しました。

川越火力発電

所では、同所についての説明を受けながら見学したり、「川越電力館テラ46」内で火力発電や水力・原子力発電の仕組みを学んだりしました。最新鋭の映像・展示施設を見て、体験することで、エネルギー資源の有限性を認識し、エネルギーと私たちの生活との関わり方などを改めて実感する機会となりました。

美浜原子力PRセンター

津北商工会



■美浜原子力PRセンターを見学した参加者

8月29日(日)、津北商工会会員41名が参加し、福井県の美浜原子力PRセンター(関西電力美浜発電所)の見学会が行われ、当会も協賛しました。

美浜原子力PRセンターは、美浜原子力発電の内部の様子を映像で見たり、身の回りのものにどれだけ放射線があるのか測ることができたり、原子力発電やエネルギーについて楽しく学ぶことができる施設です。原子力発電の模型を見ながら原子炉についても説明を受けた参加者たちは、興味深く聞き入っていました。

地域便り

四日市市

駐輪場にソーラーパネルを設置



■太陽光発電付きの駐輪場

四日市市は、市庁舎敷地内に設置したソーラーパネル付き駐輪場の利用を今年3月から開始しています。約80台分の駐輪場の屋根に設置されたパネルは48枚で、太陽光で発電した電力は全て庁舎内で使用しています。発

電量を示すパネルも設置されており、数値も確認できます。今回は、太陽光など新エネルギーの普及啓発、環境にやさしい自転車の利用促進などを目的に設置されましたが、他にも一般家庭や事業者にも新エネルギー導入等促進事業として補助を行うなど、エネルギー・環境施策に取り組んでいます。市では、今後も公共施設を新設する場合などは積極的に導入を検討したいとしています。

ご当地グルメ紹介 「とんてき」

今や四日市のソウルフードとも言われている「とんてき」は、分

厚い豚肉の肩ロースをニンニクと一緒に濃い目のたれで焼き上げたもので、たっぷりのキャベツの千切りが添えられている。スタミナ満点で疲労回復はもちろん、美肌効果もあるとか。市内の多くの飲食店でメニュー化されているので、各店の味の違いも楽しめます。



■四日市名物とんてき

訃報 初代会長 堀木氏がご逝去

エネルギーを考える会・みえ初代会長の堀木博氏が平成22年3月12日、ご永眠されました。95歳でした。堀木氏には平成8年の設立時以来、平成17年度までの10年間、当会会長として、エネルギー・環境問題の県民への啓発を中心とした当会の活動に大変ご尽力いただきました。

ご生前のご功労に敬意を表しますとともに、心よりご冥福をお祈りいたします。



■エネルギーを考える会・みえ
設立総会で挨拶する堀木前会長
(平成8年4月13日
三重県総合文化センターで)

お知らせ



放送時間

月曜日
8:25~ 8:27

水曜日
17:48~17:50

金曜日
13:50~13:52

当会の活動をより多くの県民の皆さんに知っていただくため、8月からレディオキューブFM三重で当会のコマーシャル放送を開始しました。当会の活動理念である「低炭素社会の実現」の重要性を説明したり、当会の案内を行ったりしています。ぜひお聴きになってください。

会員の募集

当会では、会員の募集を行っています。

21世紀におけるエネルギー・環境問題を共に考え、行動する人の「輪」を広げています。

当会にご関心をお持ちの未入会の企業、団体、一般の方に一声お掛けいただきますよう、お願いいたします。

地区別講演会・公開シンポジウムの開催(予定)

●当会では今年度、三重県内において地区別講演会および公開シンポジウムの開催を予定しています。

公開シンポジウム

10月下旬…北勢地区
2月上旬…南勢地区

12月中旬…中勢地区

地区別講演会

9月27日…伊賀市
1月中旬…北勢地区

11月中旬…南勢地区

3月上旬…中勢地区

日程・会場・内容等の詳細は、当会ホームページ (<http://www.e-mie21.com>) に随時掲載いたしますので、ご確認ください。または事務局までお問い合わせください。

お近くでの開催の際には、ぜひご来場ください。お申し込みをお待ちしています。

役員名簿・編集後記

21世紀のエネルギーを考える会・みえ 役員等一覧

平成22年7月1日現在

■会 長					
小菅 弘正	四日市商工会議所顧問			平畑 武	UIゼンセン同盟三重県支部運営評議会議長
■副会長				平野 清彦	JEC連合三重地方連絡会副議長
齋藤 彰一	三重県商工会議所連合会会長			鈴木 隆夫	日産労連三重地方協議会議長
藤田 正美	三重県商工会連合会会長			宮崎三代橋	交通労連中部地方総支部三重県支部支部長
佐久間裕之	三重県中小企業団体中央会会長			井坂 紀之	基幹労連三重県本部事務局長
奥田 卓廣	三重県経営者協会会長			林 竜二	電力総連三重県電力総連会長
藤原 義治	三重県友愛連絡会議長			加治 圭一	日本青年会議所東海地区三重ブロック協議会会長
吉田 文雄	エネルギー問題三重県研究会代表世話人			大川 妙子	三重県地域婦人連絡協議会会長
■理 事				伊藤 幸子	三重県新生活運動推進協議会会長
竹林 武一	三重県商工会議所連合会副会長			加藤 正彦	三重県医師会会長
廣瀬 壽	同上			山下 晃	社団法人三重県建設業協会会長
中井 均	同上			瀬河 英雄	社団法人三重県建築士会会長
大泉 源之	同上			鯉江 盈	三重県商店街振興組合連合会理事長
木津 龍平	同上			渡邊 一雄	三重県電器商業組合理事長
土井八郎兵衛	同上			楠 修次	三重県電気工事業工業組合理事長
伊藤 恵智	三重県商工会連合会副会長			伊藤 達雄	都市環境セミナー会長
篠木 幸一	同上			■監 事	
川合 文郎	同上			長田 幸夫	三重県商工会議所連合会監事
西尾 雄三	同上			堀 博敏	三重一般労働組合同盟書記長
大内 丈夫	同上			■顧 問	
竹尾 博光	三重県中小企業団体中央会副会長			藤田 幸英	三重県商工会連合会特別顧問
三林 憲忠	同上			■理事・事務総長	
向井 弘光	同上			奈須 庄平	四日市商工会議所専務理事
黄瀬 稔	同上			■事務局長	
菊川 靖之	三重県経営者協会副会長			服部 勝	21世紀のエネルギーを考える会・みえ
澤田 隆	同上			■運営幹事	
佐藤 浩司	同上			井ノ口輔胖	三重県商工会議所連合会専務理事
小林 長久	同上			佐々木史郎	三重県商工会連合会専務理事
高崎 征輝	同上			伊藤 良夫	三重県中小企業団体中央会事務局長
黒川 正機	同上			横田 正典	三重県経営者協会専務理事
浅野 啓介	電機連合三重地方協議会副議長			長谷川善樹	電機連合三重地方協議会事務局長
宮本 正一	自動車総連三重地方協議会議長			広垣 和彦	電力総連三重県電力総連執行委員

編 集 後 記

より積極的なPR活動を行ってまいります



事務局長 服部 勝

6月8日に開催いたしました平成22年度総会には、多くの会員の皆様にご参加いただき、ありがとうございました。

今年度は、地区別講演会や公開シンポジウムの開催、各種団体等への提言活動、委託研究の成果発表などを予定しており、県民の方々に当会の活動を知っていただけるよう、より積極的なPR

活動を行ってまいりたいと考えています。会員の皆様方のご参加をお待ちしております。

また、当会の活動に関する会員のみなさまのご意見、ご感想を随時受け付けています。いただいたご意見、ご感想は、今後の活動の参考とさせていただきますので、お気軽に事務局までお寄せください。

シンボルマーク

“共生”



「みえ」のイニシャル“M”と自然のイメージをモチーフに、自然環境と暮らし、エネルギーの共生を表現しています。色は海のブルーと樹木のグリーン、図形は地球であり、「三重」の海と山、美しい海岸線でもあります。ダイナミックな“M”で、未来に向けて発展していくエネルギーの躍動感を表しました。

お問い合わせ先(事務局)

〒514-0004
津市栄町3丁目248番地
きりんセカンドビル302号
TEL&FAX(059)229-3790
HP▶<http://www.e-mie21.com/>